

令和8年度

「運営に関する計画」

大阪市立蒲生中学校

令和8年 4 月

大阪市立蒲生中学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

近年、不登校生徒は増加傾向にある。安心安全の城東区との連携事業 SSR (スクールサポートルーム) を活用して不登校対策に取り組んでいる。大阪市の掲げる不登校生徒状況の目標値まで改善させるためには、関係諸機関と連携しながら SSR のさらなる活用と不登校へ繋がる小さなサインを見逃さない体制作りと教職員の意識の向上が重要である。

学力面において、各学年ともチャレンジテストのほとんどの教科の平均では大阪府・大阪市を上回っているが、下回る教科もある。そのため、教科ごとに結果を分析し、改善できるよう令和 8 年度「ティーチング・エンパワーメント事業」を活用して校内授業研究および授業アンケートを連動させ、教員の授業力向上および生徒の学力向上に取り組んでいく。ICT 機器の活用率が一昨年度 80% に満たない日が多かったが、昨年度は、心の天気や授業改善によりほとんどの月で 80% を超える日が 60% を超えた。今後は授業でいかに ICT 機器を活用して授業改善を行っていくか、教員の工夫と意識の向上が必要である。

体力面において昨年度はほとんどの種目において全国平均を上回った。校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合は 55.4% と高く、このことが全国平均を上回る結果につながった。今後もスポーツが好きな生徒の育成に取り組んでいく。

環境面では昨年度と同様、教職員のワークバランスと ICT 機器の使用頻度の増加と効果的な活用方法の工夫を目標とする。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 年度目標アンケートにおけるにおいて、不登校生徒の改善の割合を 65% 以上にさせる。(昨年度 32.3%)
- 年度目標アンケートにおける「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90% 以上にする。(昨年度 81.2%)
- 年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90% 以上にする。(昨年度 84.2%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 95% 以上にする。(昨年度 90.6%)
- 年度目標アンケートにおける「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 90% 以上にする。(昨年度 81.5%)
- 年度目標アンケートにおける「規則正しい生活 (「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間に起きること)」が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。（ただし事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さないに数を除く）（昨年度 60 %）
- 年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたから」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 教職員の働き方改革に関して、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%にする。（昨年度 95%）
- 教職員の働き方改革に関して、時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を昨年度以上にさせる。（昨年度 32.3%）
- 年度目標アンケートにおける「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を82%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。（昨年度84.1%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける、国語の平均正答率の対府比を、同一日集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける、数学の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を60%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたから」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 授業日において、生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さないに数を除く）（昨年度 1.8%）
- 教職員の働き方改革に関して、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%にする。
- 教職員の働き方改革に関して、時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立蒲生中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を昨年度以上にさせる。(昨年度 32.3%) ○年度目標アンケートにおける「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 82%以上にする。 ○年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。(昨年度 84.1%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 登校支援対策委員会で情報共有し、不登校傾向にある生徒が不登校にならないよう S S R やフリースクールなど関係機関と連携して取り組む。(生活指導部) 指標 登校支援対策委員会で、定期的、必要に応じて開催し、心の天気の使用率を 80%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 学年の取り組みを通じて、自己肯定感を高めることで、人の役に立ちたいと感じる生徒の育成に取り組む。(各学年) 指標 1年生は職業講話、2年生は職場体験、3年生は進路講話、それぞれ実施し、また自己肯定感を高める取り組みを各学年で実施する。	
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生徒が安心して学校生活が送れるよう、学校全体でいじめ防止と早期発見に取り組む。また、いじめが疑われる場合は、迅速かつ適切にこれに対処し、さらにその再発防止に取り組む。(生活指導部) 指標 ・校内生徒指導研修会・連絡会を毎月実施する。 ・毎学期いじめアンケートと教育相談週間を実施し、生徒との信頼関係を構築と早期発見、早期対処に取り組む。	
取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 校内のインクルーシブ教育の充実を図るため、支援体制を確立する。また、個に応じた適切な学びの場の選別に取り組む。(特別支援担当) 指標 障がいのある生徒一人一人に「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、その計画に基づいて効果的な指導や適切な支援を行う。 インクルーシブ教育研修会、連絡会を毎月実施し、特別支援在籍の生徒の情報共有を徹底する。 来年度、通級を開始するにあたり、先行実施する学校への見学、意見交流を実施する。	
取組内容⑤【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 年に1回、外部機関によるスマホの使い方などに関する実施し、実際に起きている事案	

大阪市立蒲生中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 ○年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を80%以上にする。 ○年度目標アンケートにおける「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 ○中学生チャレンジテストにおける、国語の平均正答率の対府比を、同一日集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 ○中学生チャレンジテストにおける、数学の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 毎時間の授業のめあてを明確にし、校内研修を通じて授業力の向上をはかる。 (教務部)	
指標 授業アンケートの「授業の進め方は丁寧でわかりやすかったか」に対する学校の全体平均値を4.4以上にする。	
取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 校内公開授業の充実、相互に研修を深めることによって誰一人取り残さない学力の向上に取り組む。 (教務部)	
指標：学校教職員全体で公開授業を実施し、研究協議を通して授業力向上に取り組む。	
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体育の授業で補強運動（毎時間）を実施し、多くの種目を年間通して取り組むことによって健やかな体の育成に取り組む。(保健体育科)	
指標 全学年、1学期に新体力テストを実施し、全8項目のうち、4項目以上の記録が大阪市の平均を上回るようにする。	
取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 健やかな体の育成に必要な運動、睡眠、食事の大切さについて食育等を通じて、基本的な生活習慣の定着に取り組む。(健康教育部)	
指標 保健だより、食育通信を毎月発行する。	

保健委員会で校内、手洗いの石けんや生理用品の設置など衛生美化に取り組む。 文化食育委員会で、食育掲示板を毎月更新し、生徒の食育意識を高める。 ・年度末の校内調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。	
・ ・	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 取組内容② 取組内容③ 取組内容④	
次年度への改善点	

大阪市立蒲生中学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する生徒の割合を 60%以上にする。 ○年度目標アンケートにおける「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたから」に対して、週 3 回以上と回答する生徒の割合を 70%以上にする。 ○授業日において、生徒の 8 割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の 60%以上にする。(ただし事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さないに数を除く)(昨年度 60%) ○教職員の働き方改革に関して、年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 100%にする。 ○教職員の働き方改革に関して、時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 D X (推進)】 学習者用端末等の ICT 機器を活用し、生徒の情報活用能力を向上する。 (ICT 教育推進委員会)	
指標 ・年度末の校内調査における学習者用端末を生徒に毎日 1 回以上は活用できるよう取り組む。 ・年度末の校内調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたから」に対して、週 3 回以上と回答する生徒の割合を 70%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 6 教育 D X (推進)】 学習者用端末を活用した授業ができるよう授業力向上に取り組む。(教務部)	
指標 ・年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する生徒の割合を 60%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員の働き方改革に関して、年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を昨年度以上にする。(昨年度 95%)。	
指標 学校閉庁日を年間 7 日以上設定し、教員の年次休暇取得しやすい環境を構築する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 取組内容② 取組内容③	
次年度への改善点	